



上：JICA事務所では、カンボジアで活動するNGOの取り組みを写真やポスターなどで紹介している(写真：石川正頼)。下：ENJJ教育分科会。カンボジアには教育に関するNGOやJICA海外協力隊員が多く、開催回数、内容ともに充実している。

**NGO-JICAジャパンデスク**

日本のNGOなどの支援とNGOとJICA連携促進のため、海外のJICA事務所に窓口がある。カンボジアでは、JICAの事業や開発関連情報を集めて発信するJICAプラザカンボジアや草の根のコンサルテーションを含む国際協力に関係した情報提供や案内を行う。図書館サービスやスタディツアーの受け付け、NGOの相談窓口といった業務もある。



**カンボジアに芸術教科の新しい教科書を作ります!**



子どもたちの絵を見ながら、カンボジア教育省の担当者たちと教科書に掲載するものを決める。

**JHP・学校をつくる会  
プノンベン事務所  
矢加部 咲(やかべ さき)さん**

2014年よりJHPの駐在員としてプノンベンで活動。専門は、国内外でのフォーマル・ノンフォーマルな美術教育活動。「これまでは単年度の事業が多かったのですが、JICAの事業は長期スパンなので、時間や人材、予算などを心配することなく、事業に集中できます」。

を新たに設けることになり、担当部局から協力要請を受けたことで再度の申請を決めました。今回も不採択だったという不安もありましたが、カンボジア政府と多くの事業を行ってきたJICAから、考慮すべきポイントなど具体的なアドバイスももらいました。それをもとに内容を詰めていくことで、きめ細かく、相手国のニーズと状況を反映させた事業案を作り、採択に至ることができました。

**ENJJで関係づくり**

JHPの初等科芸術教育支援事業は、JICAの草の根技術協力事業として16年からスタートしている。教育省の担当職員とともに取り組んでいて、芸術教科の学習指導要領・授業計画・教科書・教員用の指導書作成から始まり、今年からは芸術教育のナショナル・トレーナー(教員を指導する人)の育成を開始する。

「公的なカリキュラムづくりに関する活動は、JHPとしてはまだまだ経験が蓄積しなければならぬ分野なので、ENJJの存在は大きいです」と矢加部さんは言う。

ENJJとは、カンボジアで活動しているEmbassy(日本国大使館)、NGO、J-BAC(商工会)、JICAの関係者が集まり、ODAや草の根の経験

や課題について協議、情報交換を行う場であり、JICAはジャパンデスクが世話人を行っている。「カンボジアで活動しているみなさんが、おたがいの活動を知り横のつながりをつくることで、活動の幅や連携を広げることができていただけだと思っています」と、JICAカンボジア事務所の小川紀子さんは言う。

矢加部さんも、「ENJJの教育分科会には、教育分野で活動するNGOや専門家、関心のある企業などが集まるので、それぞれの活動はもちろん、教育省の動向やほかの教科の教材作りの進捗、事業をするうえでの工夫など、普段なかなか手に入りづらい情報を得ることができ、とても助けられています」と、ENJJの有用性を実感している。この場があることで、ほかの団体とつながりやすくなり、より広い支援ができる可能性を矢加部さんは指摘する。

JICAカンボジア事務所を訪れると、この地で活動するNGOが写真やポスターでわかりやすく紹介され、関連資料もたくさん用意されている。「自分たちの活動を紹介していただき、とても励みにもなり、活動にも力が入ります」と矢加部さんが言うように、NGOとJICAの緊密な連携が、カンボジアの未来につながっていく。

NGOの強み/  
**教育支援の経験を生かす**

**初等教育に芸術教科を**

1993年からカンボジアの子どもたちのために学校を造り、教育支援を行ってきた「JHP・学校をつくる会」が、音楽や美術などの芸術教科のカリキュラムづくりへの支援に取り組み始めている。

案件名 初等科芸術教育支援事業  
2016年8月～2021年8月



ステキに  
できた!

日本の図工にあたる授業を受けるカンボジアの小学生

Kingdom of Cambodia

**カンボジア**

国名：カンボジア王国  
通貨：リエル  
人口：1630万人  
(2018年IMF推定値)  
公用語：カンボジア語

ポルポト政権時代に多くの学校が破壊され、教員などの知識人が粛清されたカンボジアでは、内戦の後、多くの国が教育分野での支援を行ってきた。現在も教育環境や教員の指導技術、教材などが十分とはいえず、多様な教育支援が必要とされている。

首都：プノンベン

**【認定特定非営利活動法人】  
JHP・学校をつくる会**

日本国際救援行動委員会での活動を通して、カンボジアでの学校建設の必要性を痛感した小山内美江子(脚本家・JHP代表)と故・二谷英明(俳優、JHP元副代表)が1993年に「カンボジアの子どもに学校をつくる会」を設立。97年「JHP・学校をつくる会」と名称を改め、2004年認定NPO法人に。おもにカンボジアでの学校建設・教育支援、ボランティア派遣、国内での啓発活動などを行っている。

みんな、  
よく見て!



授業実践で教師として子どもたちに授業をするJHPのスタッフ。

**粘り強く事業を申請**

JHP・学校をつくる会(以下、JHP)は、長年カンボジアで学校建設や教育支援を行ってきた。これまでに建設した校舎は350を超え、カンボジア政府や教育関係者からの信頼も厚い。校舎建設に加え、現地で不足する楽器を届ける活動や絵画展、音楽イベントの開催、美術や音楽教員の養成など子どもたちの芸術教育支援にも取り組んできた。JHPプノンベン事務所の矢加部咲さんは、カンボジアの芸術教育の現状を次のように語る。「カンボジアでは、音楽や美術の授業は日本の学校のように毎週決まった時間にあるわけではなく、子どもたちの自由で豊かに表現する力を育む環境がまだ整っていません。芸術教科を教えることができる教員も少ないんです」。

そこでJHPは、2015年に音楽と美術の初等科芸術教育支援をJICAの事業に応募したが、採択には至らなかった。それでもあきらめずに翌年、再度応募。その背景にはJICAカンボジア事務所内のNGO・JICAジャパンデスクのサポートが大きかったと矢加部さんは言う。「カンボジア教育青年スポーツ省(以下、教育省)が10年ごとに行っているカリキュラム改訂で芸術教科